

子どものしつけに関する保護者の意識—小学校高学年の保護者を中心として—

中島 朋紀

(鎌倉女子大学短期大学部)

I. 目的

K 女子大学初等部（小学校）5・6年生の保護者を対象とした質問紙調査を行い、子どものしつけに関する保護者の意識を明らかにすることである。

II. 方法

調査対象者

5・6年生の保護者 110 名（5年生保護者 66 名・6年生保護者 44 名）が調査に参加した。

調査方法と調査内容

調査は、学級担任が児童を通して保護者にアンケートを渡した。アンケートは無記名で実施し、各自記入後、学級担任が回収した。調査は、まず保護者自身（回答者）の「性別」「年齢」について尋ねた。つぎに、しつけに関する質問事項を 44 項目設け、実施したことがあるものに○をつけてもらった。このテストの満点は、44 点であり、得点が高いほど、子どもの社会性を育てるために必要なしつけ・指導を行っているということになる。また、最後に記述欄を設け、子育てで重視していることを自由に記述してもらった。

表 1 アンケート調査の質問

質問事項	
1. 朝、必ずあいさつするように指導すること。	23. 子どもの誕生日にはプレゼントをあげること。
2. 呼ばれたら必ず「はい」とはっきり返事するように指導すること。	24. 子どもの前で夫婦喧嘩はしないこと。
3. 履物を脱いだら必ずそろえ、席を立つたらず必ず椅子を入れるように指導すること。	25. 子どもよりも夫、子どもよりも妻を優先させること。
4. あいさつは、自分から先に、相手の顔を見て、笑顔できるように指導すること。	26. 子どもの前で、夫や妻を罵めること。
5. 親同士で感謝の言葉を言い合うこと。	27. 家事を子どもにも分担すること。
6. ケンカしたら、「ごめんね」と自分から先に謝るように指導すること。	28. 子どもにトイレ掃除をさせること。
7. 物を渡すときは、「はい、どうぞ」と笑顔で行うように指導すること。	29. 子どもに食事が出来ることに感謝するように指導すること。
8. ドアの前では、「お先にどうぞ」と立ち止まらせるように指導すること。	30. 人と比べず、その子の良さを伝えること。
9. 子どもに「お掃除で」を勝って聞かせること。	31. 子どもに生き物の世話をさせること。
10. 食事の時、作ってくれた相手に、「これ、おいしいね。」と感謝の気持ちを表しながら食べるように指導すること。	32. 食事中はテレビを消すこと。
11. 子どもが失敗したとき、「だいじょうぶだよ」と励ますこと。	33. 子どもにゲームは制限するように指導すること。
12. 子どもの話はずなずきながら聴き、何か良いことがあったら一緒に喜ぶこと。	34. 子どもに本の読み聞かせをさせること。
13. 子どもに友達の良いところについて話してもらうこと。	35. 子どもに毎日、読書をする習慣をつけさせるように指導すること。
14. 子どもが人を傷つける言葉を言ったら、その場で叱ること。	36. 新聞を読んで子どもと語り合うこと。
15. 子どもに落としやすいものには、顔にでもわかるように名前を書くように指導すること。	37. 子どもに人の傘を返すように指導すること。
16. 子どもにものを人に貸してあげるように指導すること。	38. 乗車マナーを指導すること。
17. 子どもにものは元の所に戻すように指導すること。	39. 子どもにお年寄りや体の不自由な方と触れ合わせること。
18. 子どもに自分の着たものを整理整頓させること。	40. 子どもに、周りの人のお陰で当たり前のように生活ができることを教えること。
19. 子どもにゴミを道で捨てるように指導すること。	41. 公園で子どもと一緒に遊ぶこと。
20. 子どもに最後まで話させること。	42. 子どもをお見舞いに連れて行くこと。
21. 子どもにものをすぐに与えないこと。	43. 子どもを人の臨終に立ち合わせること。
22. 子どものやる気をもて起こさせないこと。	44. 子どもを葬式や墓参りに連れて行くこと。

III. 結果と考察

(1) 得点結果

一番多いのは「31～35 点」であり、全体の 23.6%であった。次に多いのは「26～30 点」であり、全体の 22.7%であった。その次に多いのは「21～25 点」であり、全体の 13.6%を占めていた。保護者の 55.4%の得点が 26 点以上であることにより、ほとんどの保護者が子どものしつけに熱心に取り組んでいることが分かった。アンケートの設問では「指導する」となっているが、「指導するのではなく自分が子どもの手本になるように率先してやる」というような意見が多く、

しつけについての親の基本姿勢、好ましいモデルとしての親の存在や親子関係があると考えた。

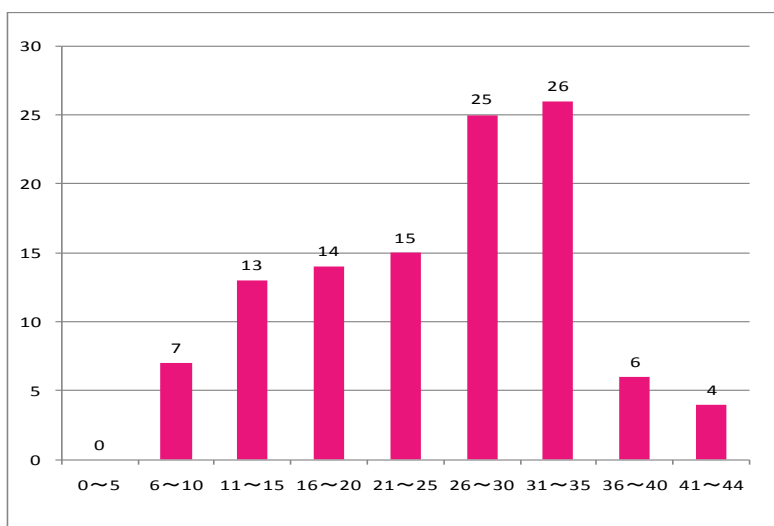


図1 アンケート調査の結果：得点

(2) 質問別の結果

1番多かったのは、「1. 朝、必ずあいさつするように指導すること。」であり、全体の3.6%であった。2番目に多かったのは、「14. 子どもが人を傷つける言葉を言ったら、その場で叱ること。」「38. 乗車マナーを指導すること。」であり、全体の3.5%であった。3番目に多かったのは、「17. 子どもにもものは元の所に戻すように指導すること。」「18. 子どもに自分の周りを整理整頓させること。」であり、全体の3.4%であった。保護者においても挨拶、他を思いやる、乗車マナー、使ったら元に戻す、自分の周りを片づけることは、日常生活に必要な基本的な生活習慣であると考え、日常の家庭教育でも意識されている。

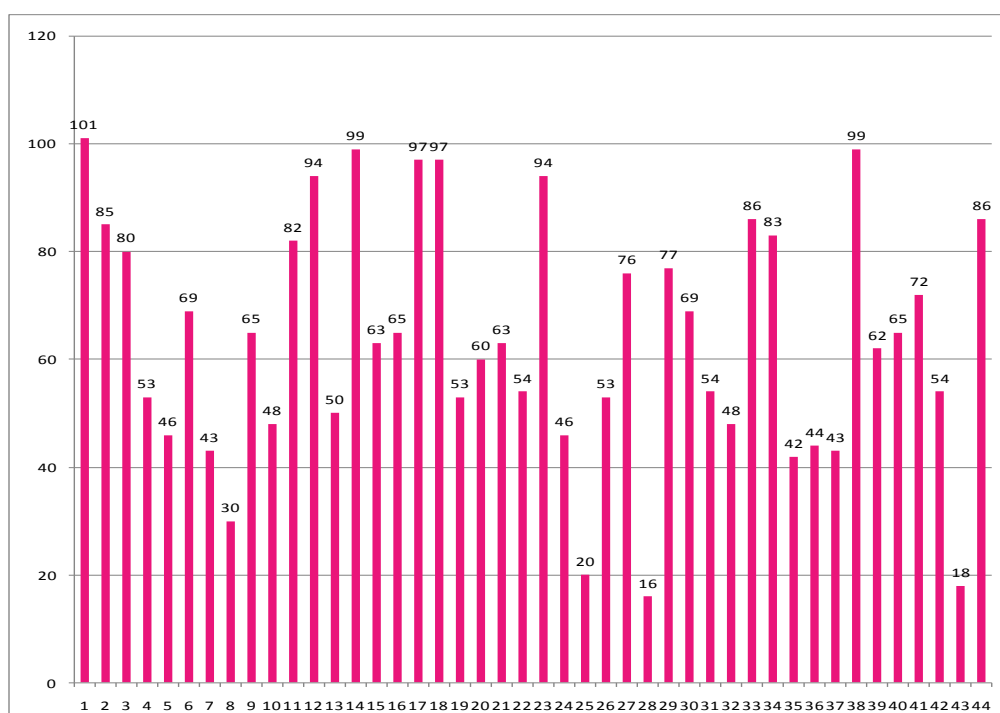


図2 質問別の結果

(3) 子育てで重視していること

保護者が子育てで重視していることで1番多かったのは、「思いやりの心を育てること」である。110人中19人が記述していた。2番目に多かったのは「感謝すること」で13人、3番目に多かったのは「挨拶」で11人が記述していた。どれも社会生活を送るに当たって必要なことであり、とりわけ保護者は思いやりのある子に育ててほしいとの期待がある。他の少数意見もどれも子どもの社会的成長に大切なことばかりであり、保護者が子どもを社会に適応させるために指導していることが伺えた。

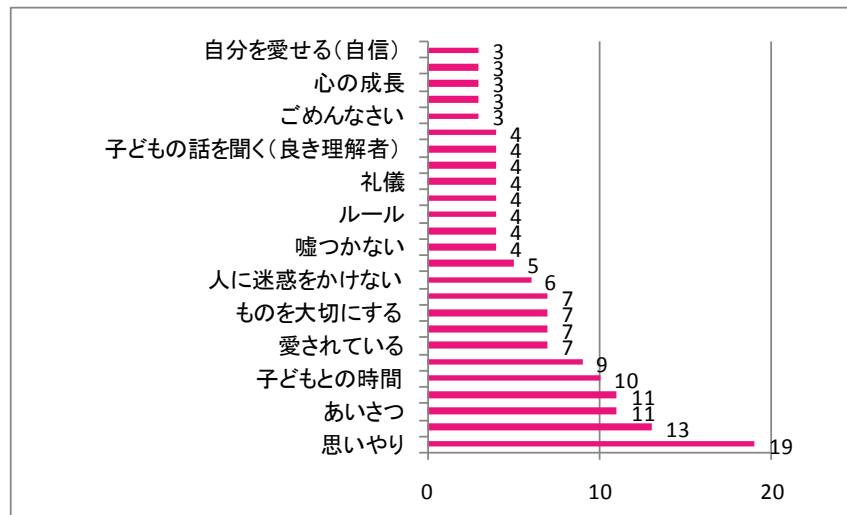


図3 子育てに重視していること（自由記述）

IV まとめと今後の課題

保護者が子どもに対して果たすべき大切な役割は、しつけの一つひとつを繰り返し親切に伝えることである。保護者が思いやりのある子どもに育てて欲しいと願い、保護者自身が子どもを十分に思いやり、思慮深い愛情を注ぎ、常に子どもの心の声に耳を傾けてあげれば、子どもも自分が親にしてもらった通りに他の人を思いやれるようになる。また、良好な人間関係を築ける子になって欲しいと願うなら、保護者が子どもに人間関係の築き方の手本を見せてやり、また積極的に子どもに人と関わる機会を与えてやれば、子どもはそんな保護者の姿から学び、自他相互の関係を尊重して円滑な人間関係を構築できる。このように、子どもの社会性を育てるためには、保護者自身が子どもの手本になれるように、保護者自身も変わらなくてはならない。子育てを通して、父親として、母親として、人間として、少しでも成長することが保護者の役割として最も大切なことであると考えます。

本研究における子どものしつけに関するアンケート調査において、保護者（母親）が子育てに関して感じていることや意識レベルを率直に記入するように求めた。回答内容には、保護者がしつけに対して親なりに取り組みながらも、しつけを通して親自身も一緒に成長している姿等が記述されていた。今後、このデータについても詳細な分析を行い、保護者自身が抱くしつけに対する感情・態度、親子間の相互作用等に明らかにしていきたい。